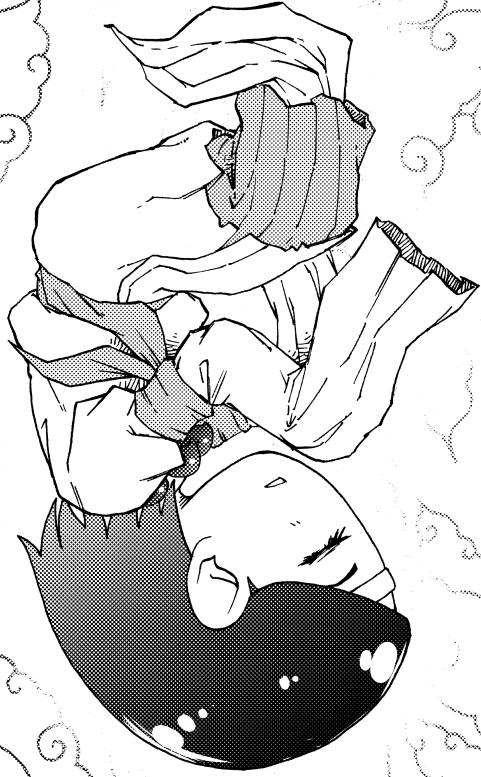
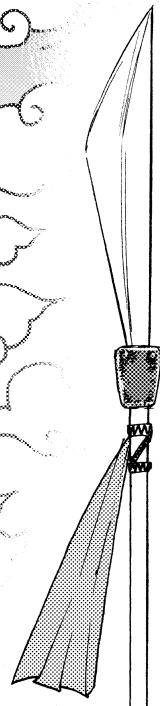


故、二柱の神、
天の浮橋に立たして、
その沼矛を指し下ろして
画きたまへば、
塩こをろこをろに
画き鳴して、
引き上げたまふ時、

その矛の末より
垂り落つる塩、
累なり積もりて
島と成りき。

これ淤能碁呂島なり。



淡路・国生み神話

お伽の島伝説

たかまがはら
高天原に住まう

みはしら
三柱の神々は

下界の海の荒れ様を

嘆き

おがみ いざなぎのみこと
雄神・伊邪那岐命と
めがみ いざなみのみこと
雌神・伊邪那美命に

海を治め島々を生む

『国生み』を命じ

あめのぬほこ
二人に天沼矛を授け

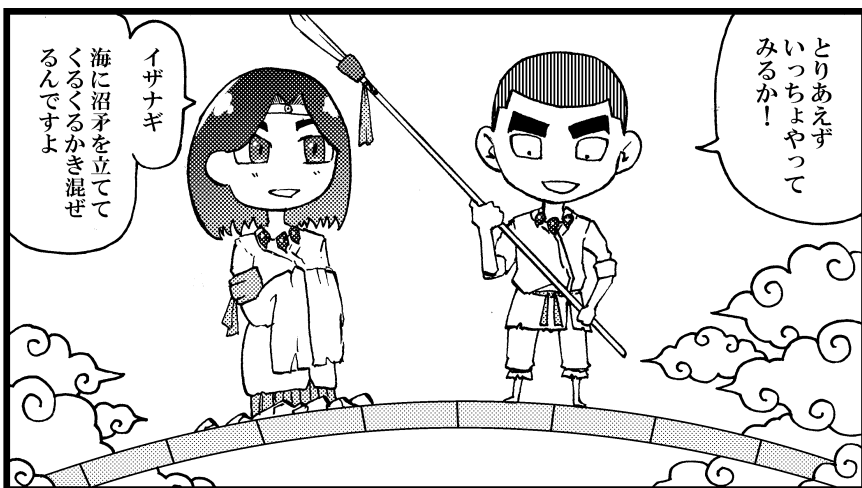
下界を一望出来る

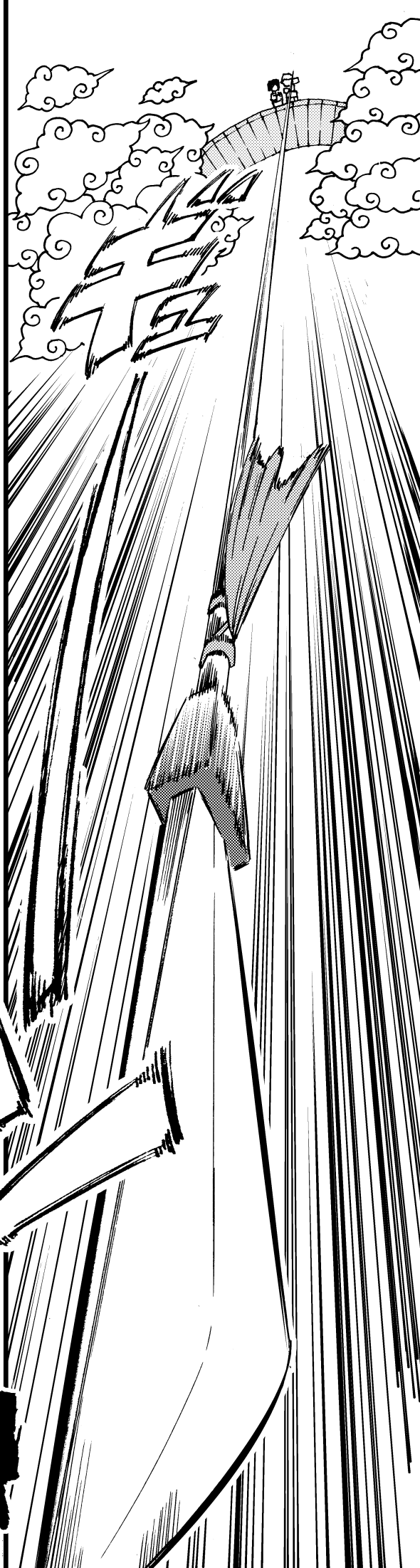
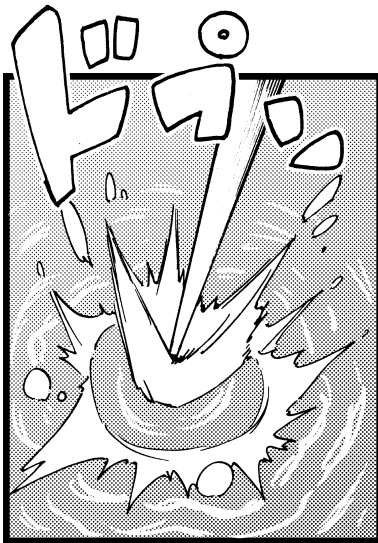
あまのつぎはし
天浮橋へ赴かせました

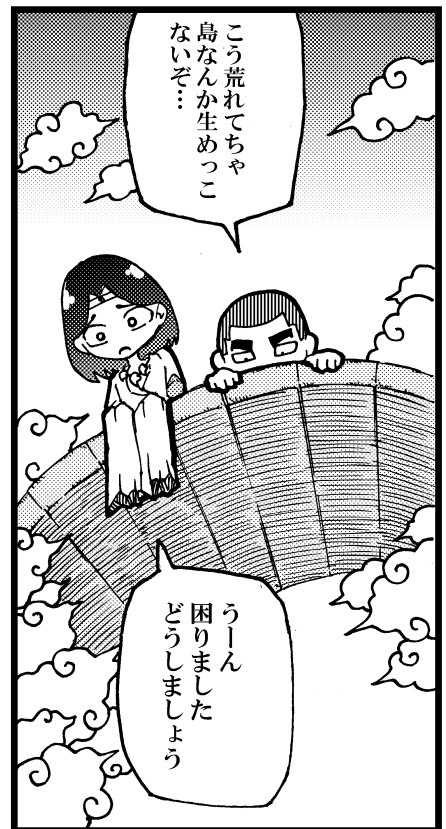
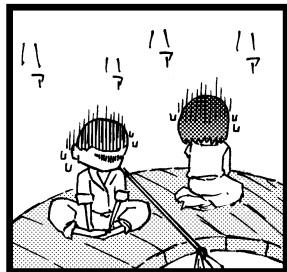
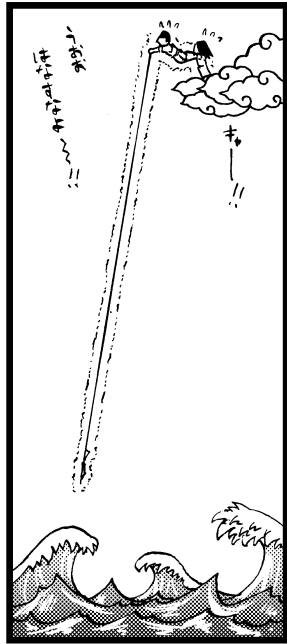
ここから下界が
見渡せるそう
ですよ！

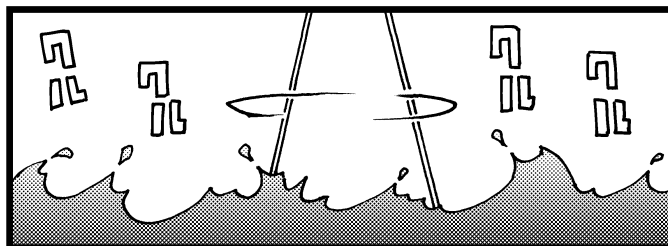
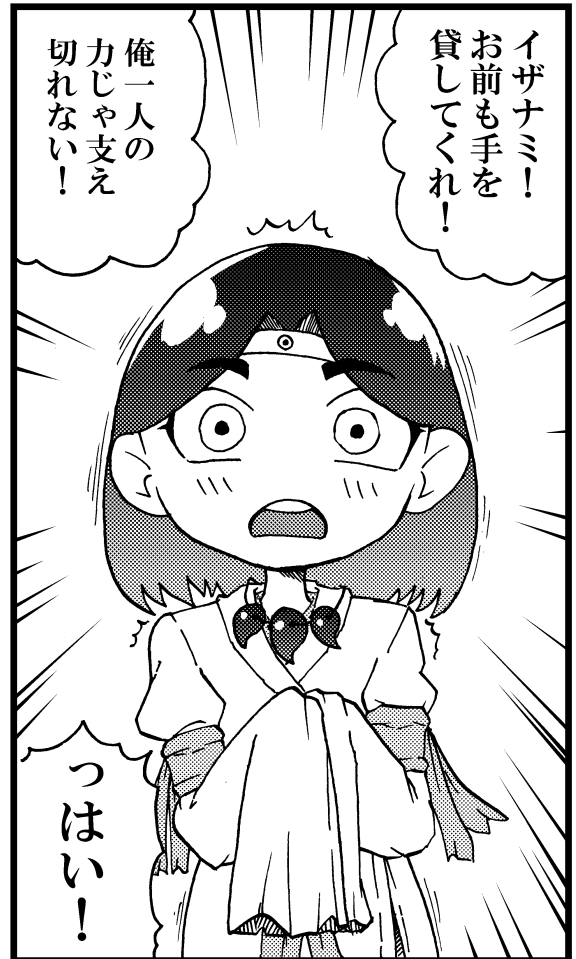
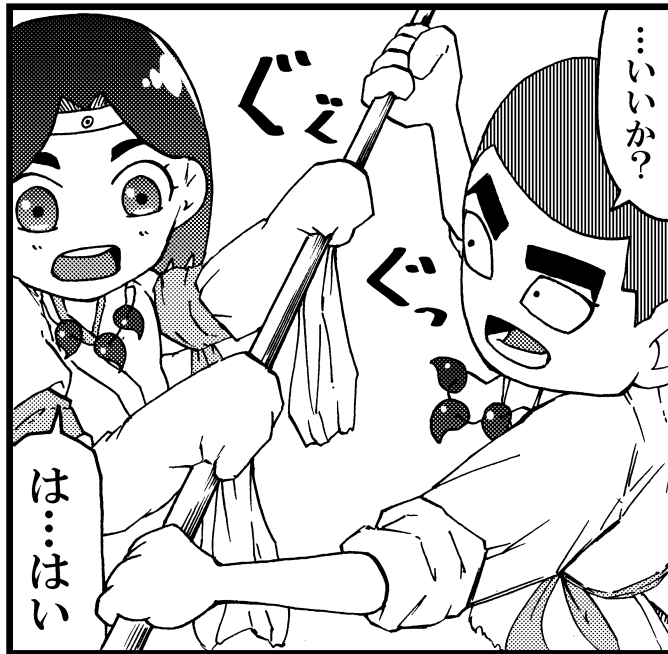
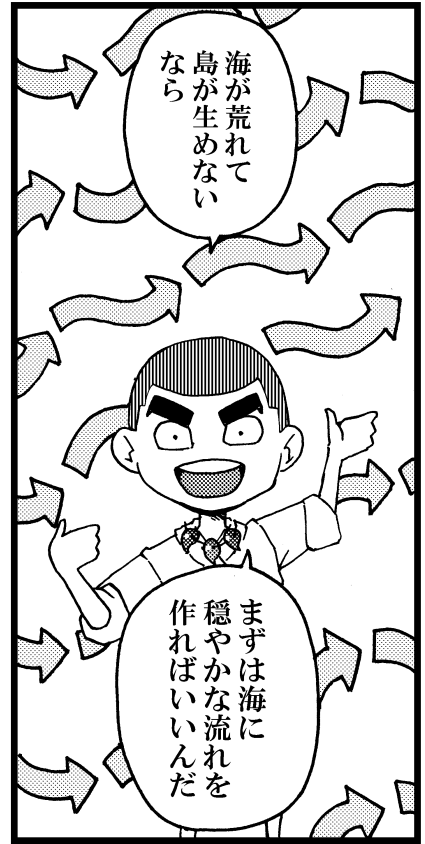
めがみ いざなみのみこと
雌神・伊邪那美命

おがみ いざなぎのみこと
雄神・伊邪那岐命







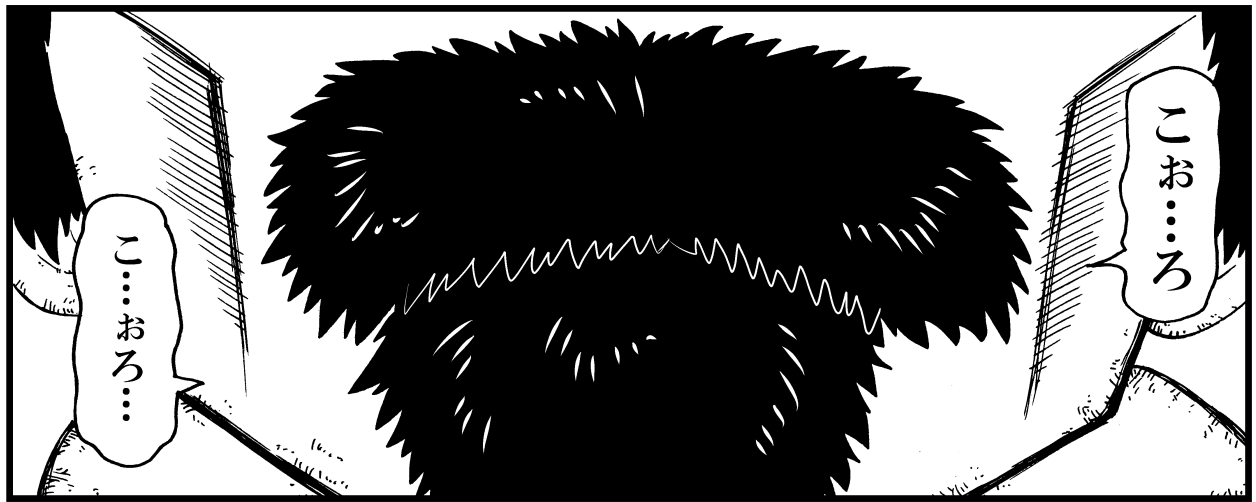


逆巻く波を
制するには二人の
力を合わせる他
無かった

気を抜けばたちまち
荒れ狂う海を相手に
二人は休む間もなく
矛を回し続けた



そうして
いつからともなく
海の中から
音が鳴り始めた
「こおろ こおろ」



こ…おろ…

こお…ろ



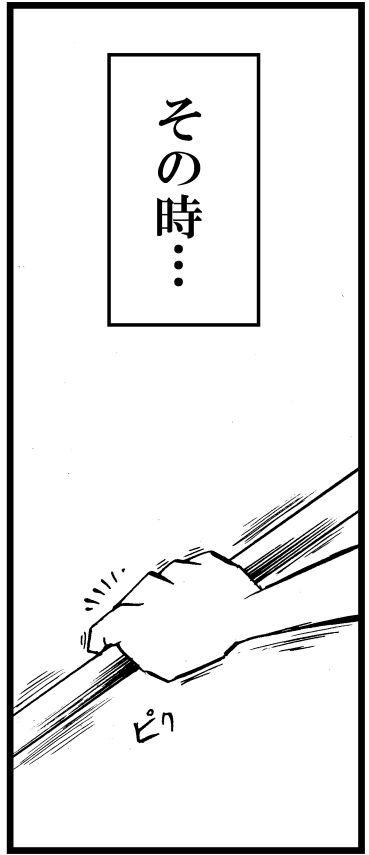
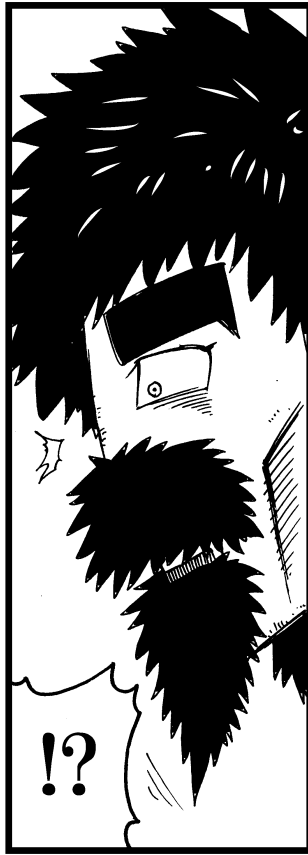
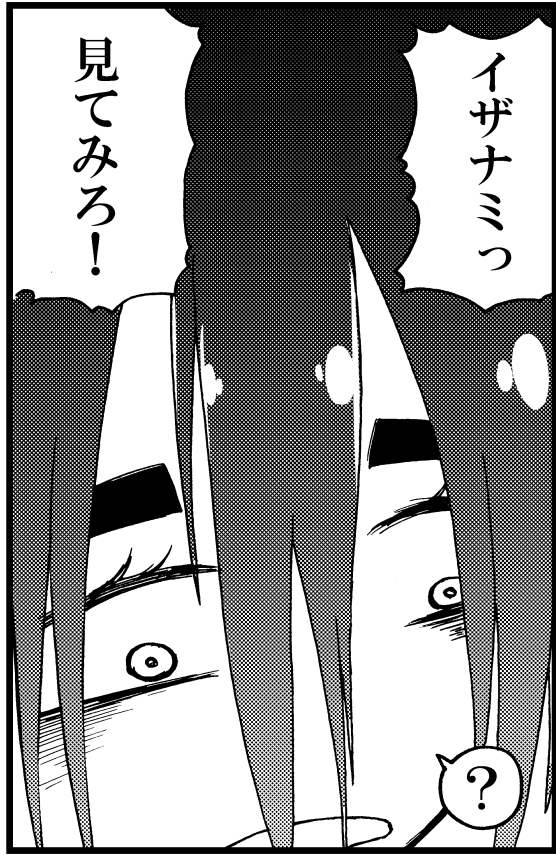
どれほどの時が
経ったのか
二人はひたすらに
矛を回し続けていた

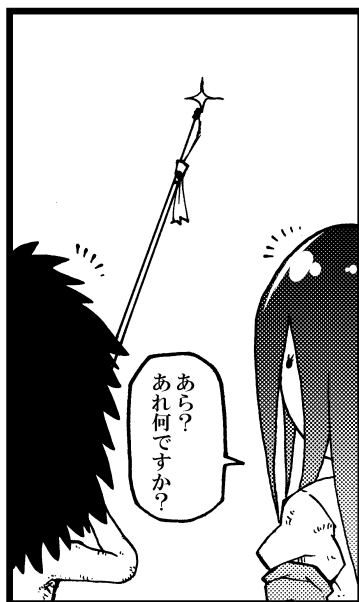
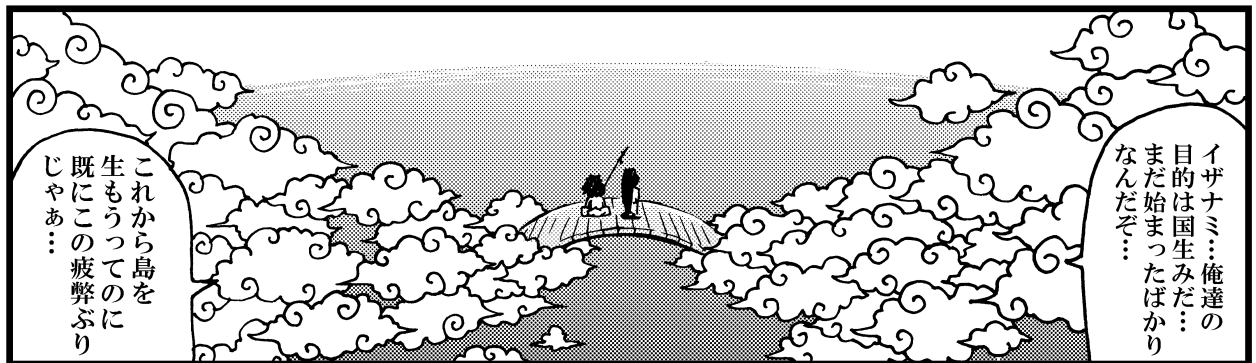
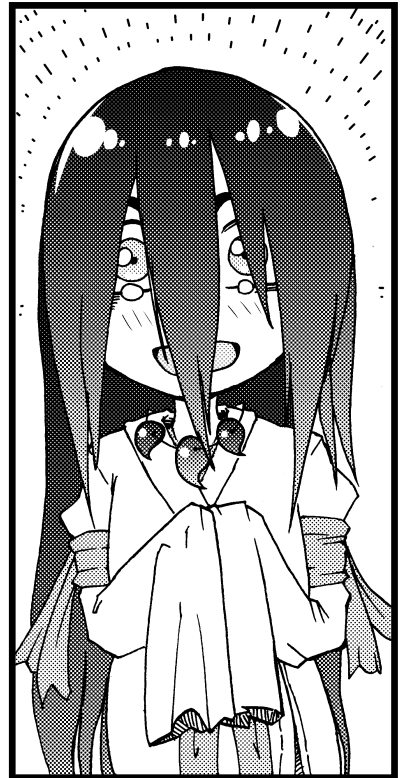
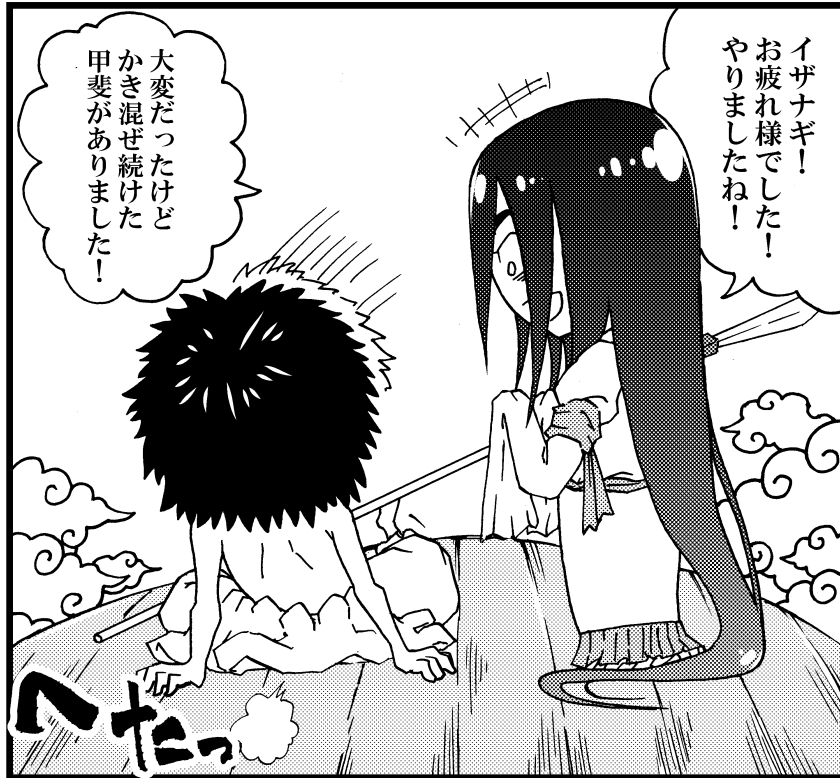
手足の感覚は既に無く
もはや時間の感覚さえ
分らなくなっていた

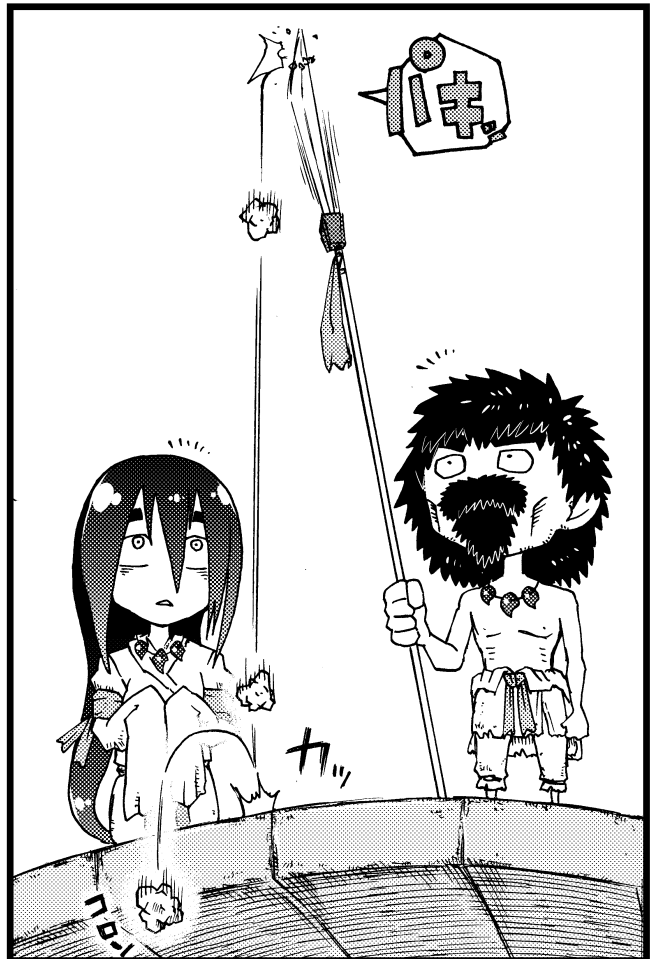
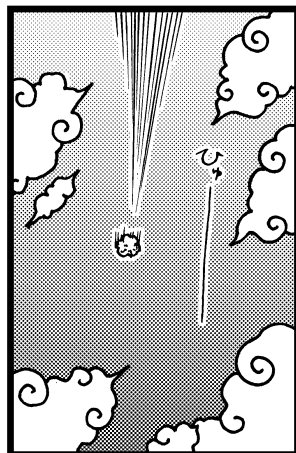
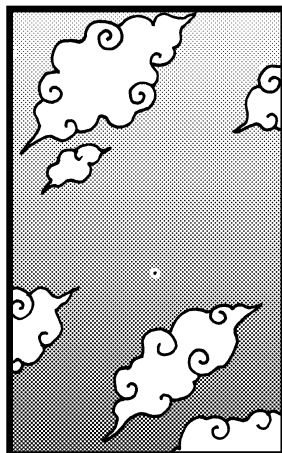
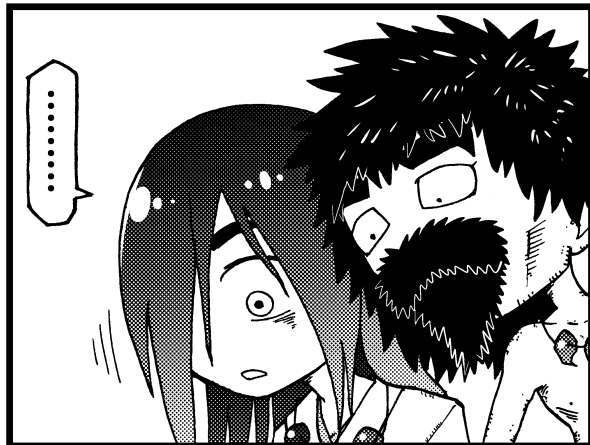
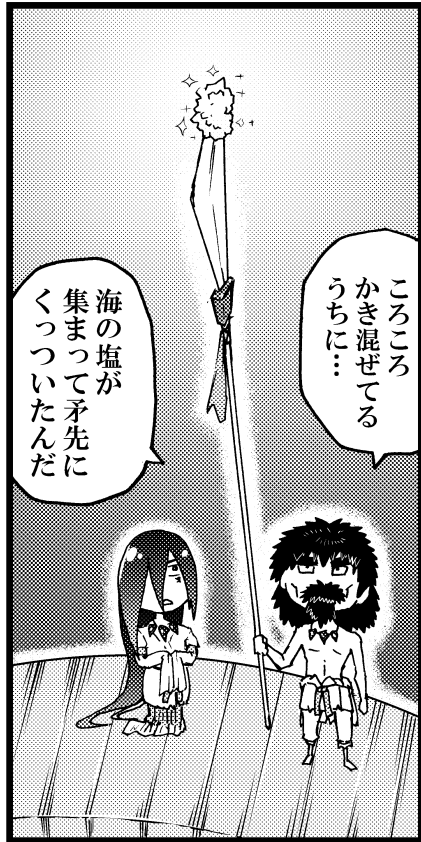
こおろ

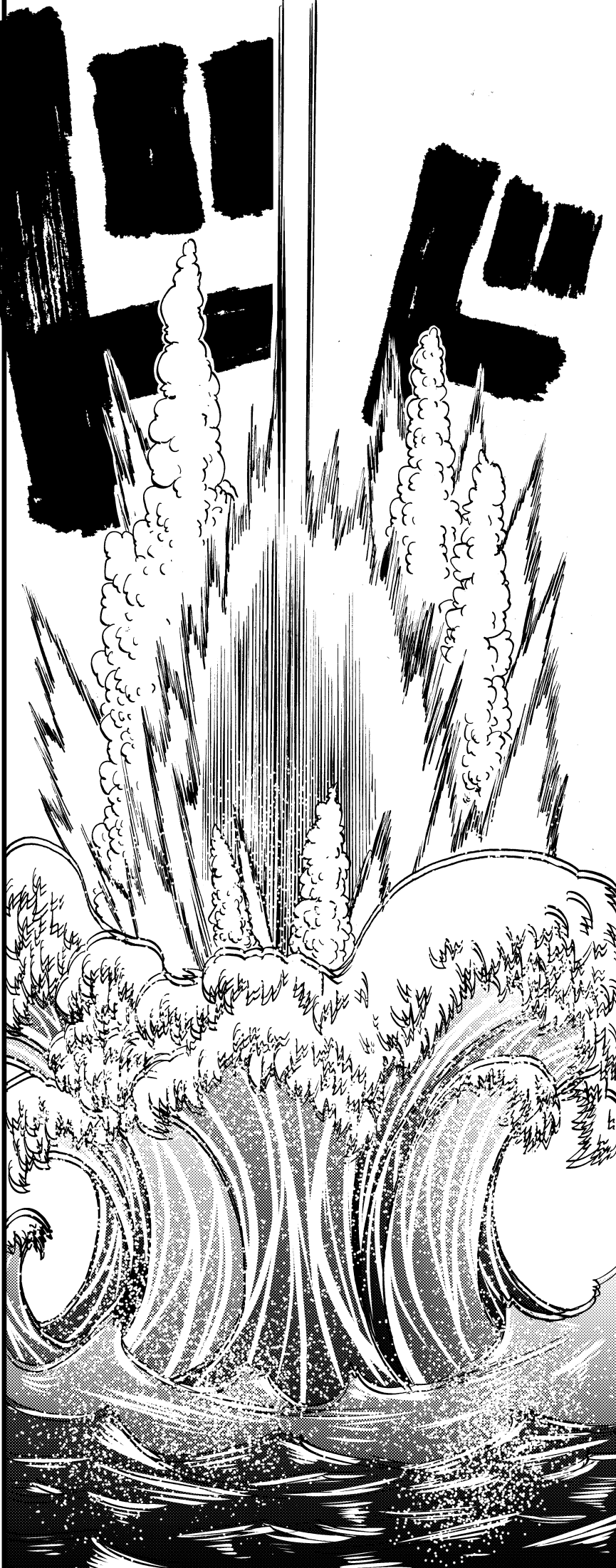
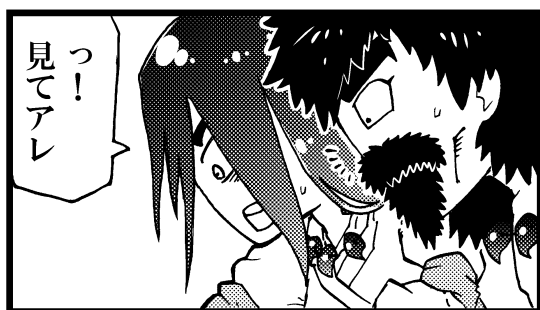
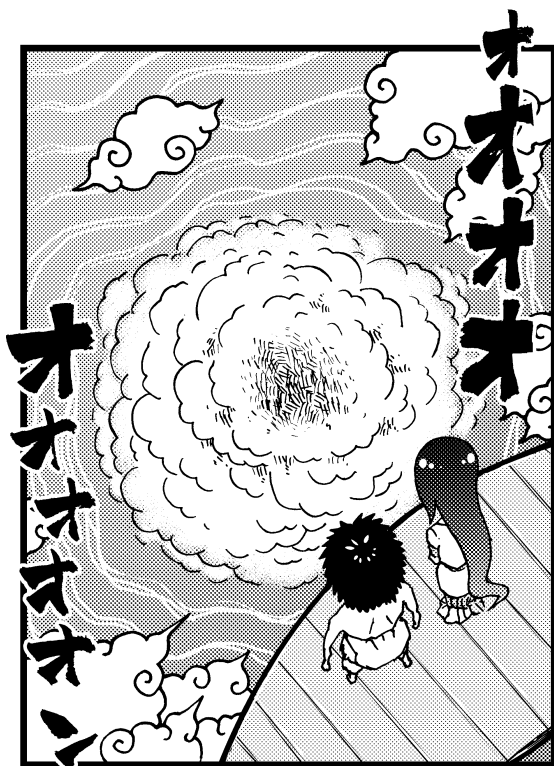
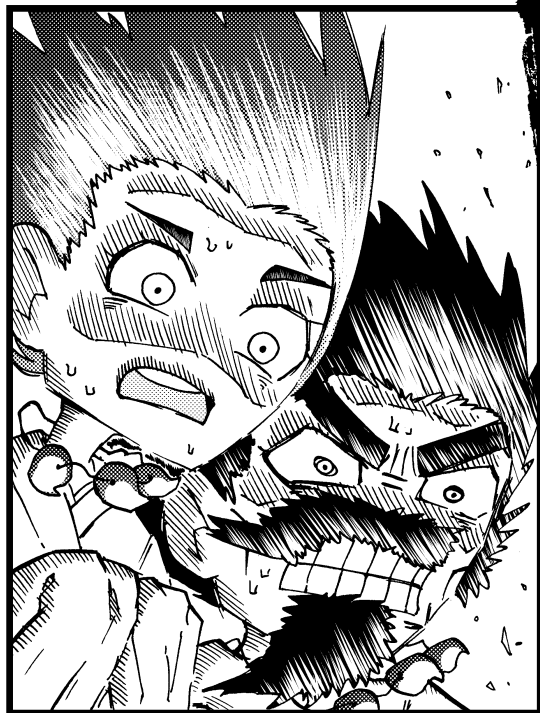
こおろ

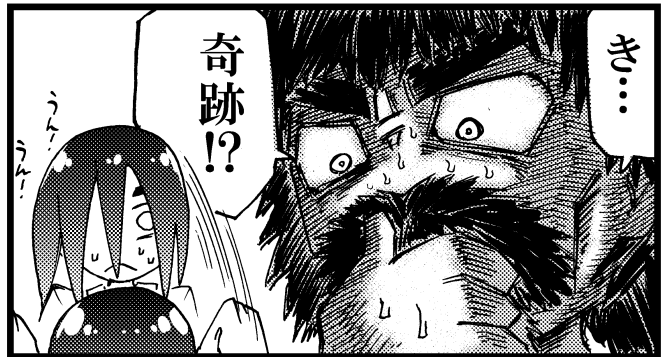
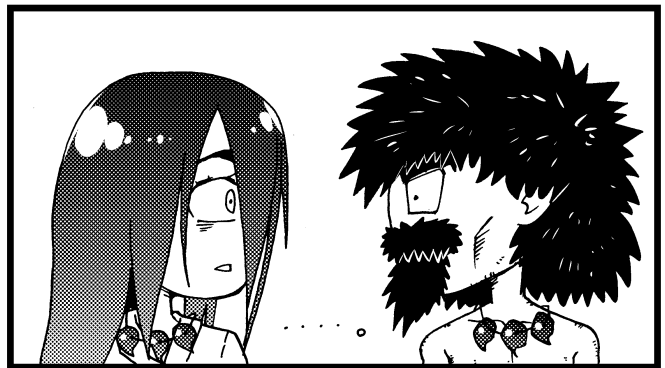
こおろ

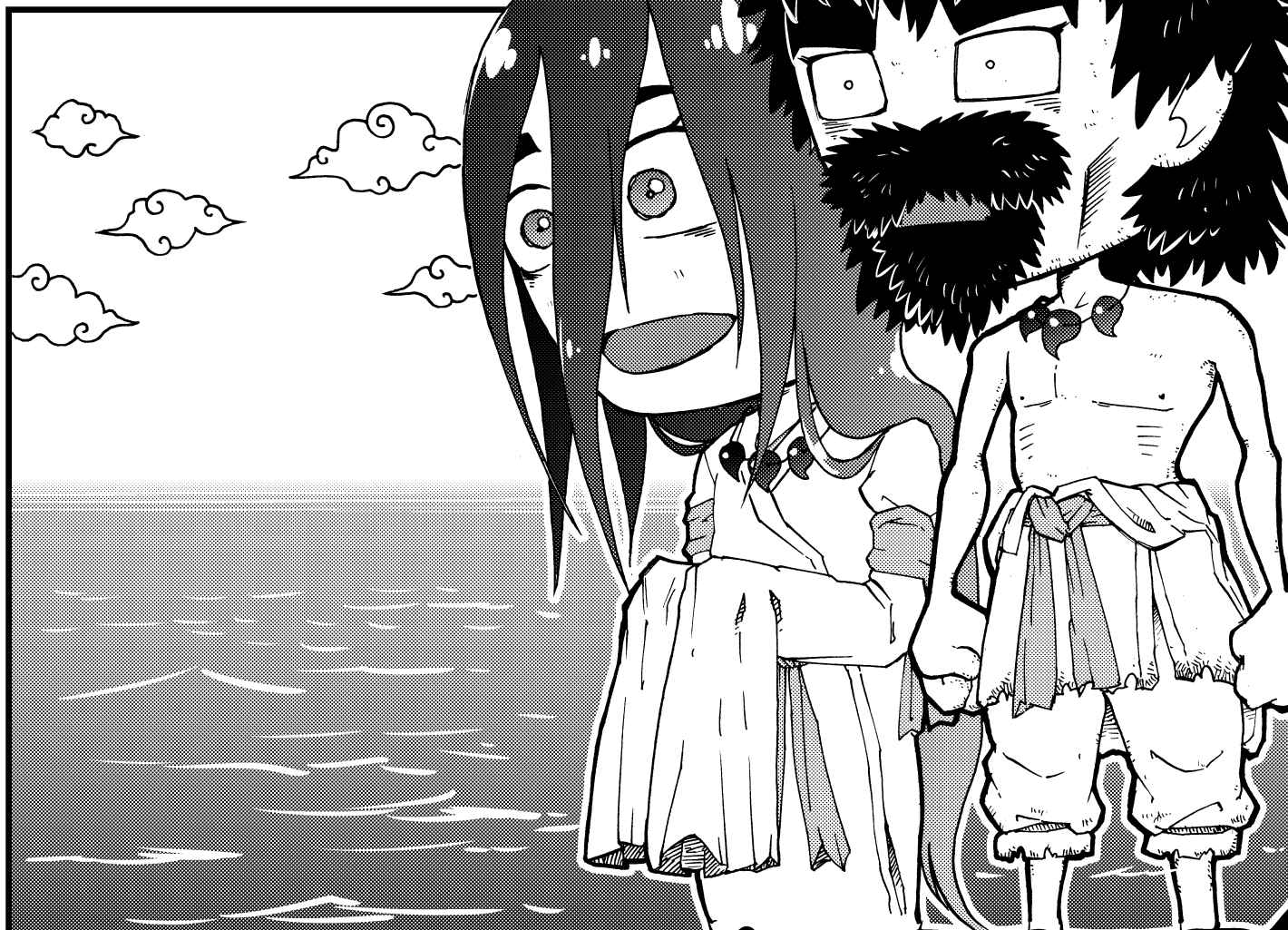
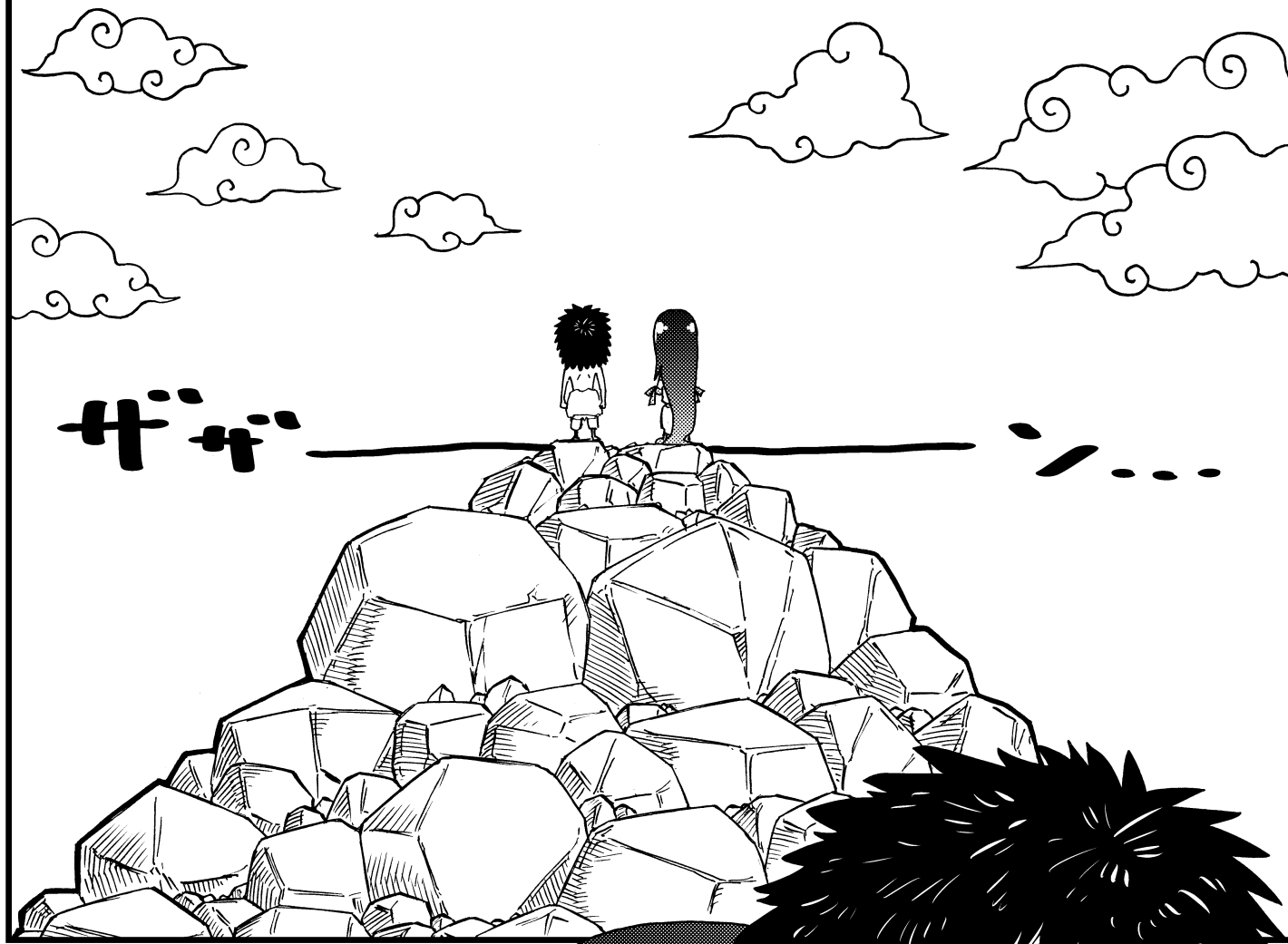


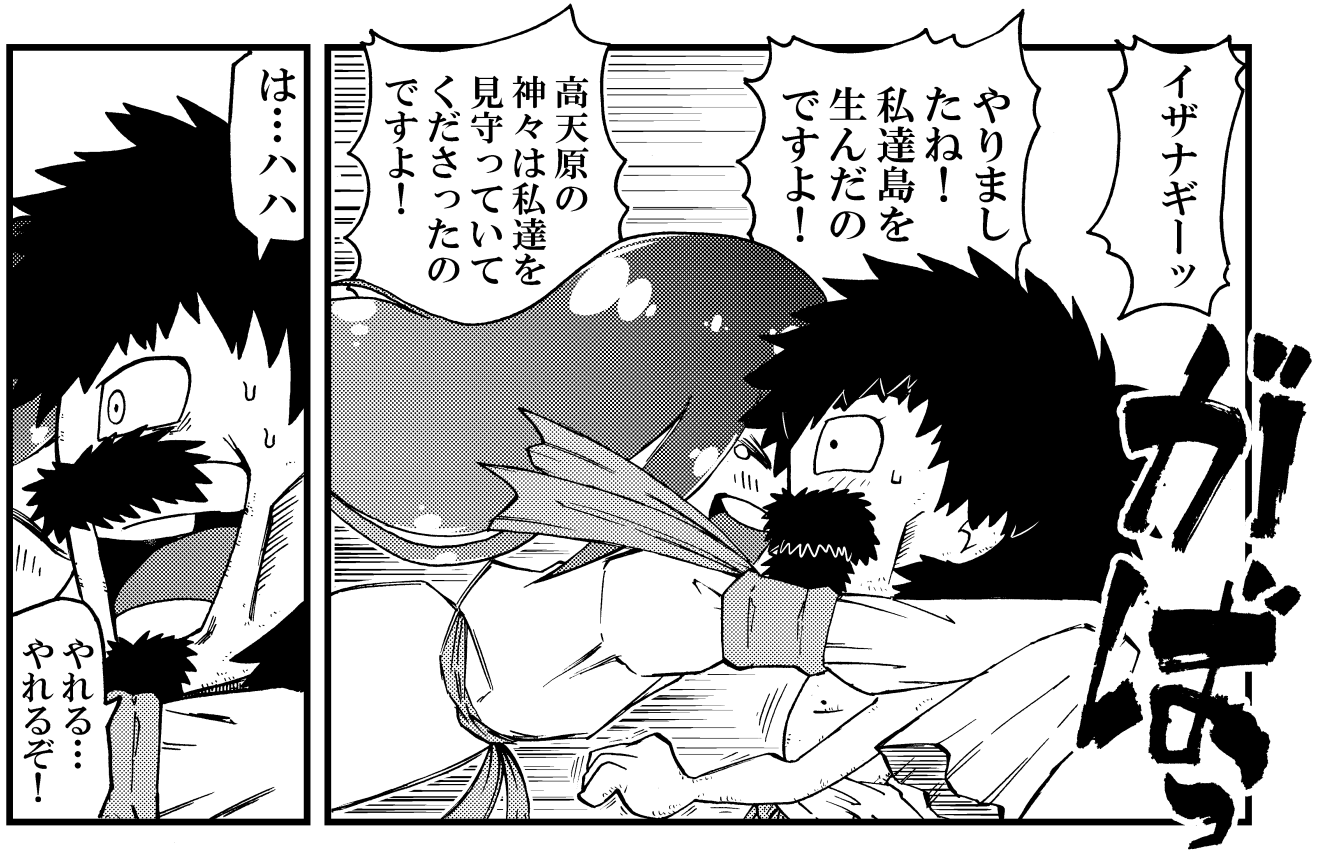












その後
伊邪那岐命と伊邪那美命は
生みだした海の流に沿って

淡路島、四国、

隠岐島、九州、

壱岐島、対馬、

佐渡島、本州を順に生み

これらの島々を、
八つの島が生まれたところから、
大八島国と呼び、
日本の国土の始まりとなりました。



淡路・国生み神話 おのころ島伝説 完